

## おわら風の盆と歴史が息づく北陸路を訪ねて（2）

長崎史談会 監事 山口篤史

越中を巡る長崎史談会の研修旅行2日目(9月4日)は富山県南砺市井波町の瑞泉寺(杉谷山・真宗大谷派)の見学が始まります。戦国時代の北陸は一向一揆が多発。同寺はその拠点の一つでした。本堂は北陸最大の木造建築物。太子堂、山門とも井波彫刻が有名。山門は県の有形文化財。門前の長い通りは彫刻の店が隣通しに軒を並べています。

次に訪ねた高岡市伏木古国府の勝興寺(雲龍山・浄土真宗本願寺派)は本願寺8世蓮如が開基。ここも一向一揆の一大拠点で、織田信長からたびたび攻撃されました。境内地はかつて越中国の国府があった所です。それにしても瑞泉寺もそうですが、境内の広さとい、寺の建物の規模といい、とてつもなく広く大きいこと。圧倒されます。

義経ゆかりの雨晴海岸。「『あめはれ』と読むとやろか」「いいや、『あまはらし』という」と言いながら富山湾を一望する雨晴海岸高台の「磯はなび」で昼食となりました。そこに高橋正樹高岡市長が待っておられました。

前号で少し触れましたように、高岡市は本会幹事の松澤君代さんのご主人七蔵氏(故人)の出身地。ご主人は長崎史談会にも加入し、高岡市の瑞龍寺の梵鐘は長崎の鋳物師が製作したことを発表され、長崎と高岡との交流に尽力されました。こうしたことを背景に、昨年、原田会長が地元の「千保川を語る会」で黄檗宗について講演。今年初めには高橋市長も来崎され、本会と交歓会を開くなど両市の交流は深まっています。

昼食会は懇親会に早変わり。高橋市長の歓迎の言葉に対し宮川名誉会長が田上長崎市長の親書を手渡し、今後ますますの交流を誓いました。市長の手土産の芳醇な地酒は大人気。「ぜひ買いたい」と醸造元に問い合わせましたが、貴重な酒で入手できませんで

た。“左利き”の会員の声が無念そう。

夕食会も「千保川を語る会」など地元の郷土史を研究する関係者と交流会。同会の太田久夫会長や役員の方々が参加され、両市の交流に花が咲きました。このほか大伴家持とゆかりが深い「万葉歴史館」、気多神社も訪ねました。

3日目(9月5日)は瑞龍寺(高岡山・曹洞宗)を訪ねました。加賀藩2代目藩主前田利長の菩提を弔うため3代藩主の利常が造営。完成までに約20年かかったそうです。広大な地に国宝の山門、仏殿、宝堂、それに重文の総門、禅堂、大庫裏、大茶堂、回廊三棟が整然



瑞龍寺の国宝の仏殿

と配置されています。さすが大大名の権勢がうかがえる名刹です。山門には隠元禅師の「高岡山」の額、宝堂にも「瑞龍寺」の額があり、黄檗宗とかかわりが深かったことを裏付けています。この後は瑞龍寺と利長の墓所を結ぶ一直線の参道「八丁道」(長さ870メートル)を歩き、参拝。たっぷり高岡を堪能しました

時間が少なくなり、予定の一乗谷の朝倉氏遺跡の見学は中止して、一路伊丹空港へ。全員無事、長崎に戻りました。

史談会の研修旅行は今回で4回目。旅行社の“おしきせツアー”では行けない場所を見たり、原田会長がていねいに説明される実のある研修旅行です。今回も北陸路の歴史を探訪できました。かゆい所に手が届くようにお世話くださった松澤さんに大感謝です。会員の間では早くも期待が膨らんでいます。「来年はどこに行くとうろうかね」 (終)

~~~~~  
 新刊書「謎解き散歩シリーズ・長崎県」を本会では定価800円のところを680円にて頒布しています。ご希望の方は本会原口和代(090-1196-3751)までお申し出ください。(残部僅少)



高岡市・高橋市長の歓迎のお言葉